

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990300071		
法人名	社会福祉法人 星風会		
事業所名	星風会グループホーム こすもす おおひら		
所在地	栃木県栃木市大平町富田5-225		
自己評価作成日	平成24年5月21日	評価結果市町村受理日	平成25年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	平成24年6月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成23年6月に大平医療福祉モール内に開設しまだ右も左も分からない中で、地域との関わりを重視してその資源を入居者の生活に取り入れて、地域と共に暮らしていけるようにサービスの提供を心掛けている。暖かい季節には近所の公園へ出かけたり、地域の交流場で昼食を摂りに行ったり、また近所の理容店やヤクルト販売店等にも毎月希望があれば入居者の散髪等やヤクルトの販売等の協力もして頂いている。また入居者の意向に沿えるようなサービスの提供を心掛けており、少なくとも年2回以上は認知症対応型共同生活介護計画(ケアプラン)の見直しを行って、その時その時の入居者一人ひとりのニーズに応えられる様な体制を敷いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣は旧日立製作所大平工場の敷地の一部であり、広葉樹の雑木林に囲まれて、四季折々の風情が感じられる場所に位置している。管理者及び職員は、向上心が高く、地域密着型サービス事業所の役割をよく理解し、自己研鑽に勤めている。全ての職員があらゆる事態に対応できるよう、工夫がされている。利用者は自分のペースでホームでの暮らしを満喫して、不安なく生活している。人生の最後の場所として、看取りに関する対応もなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に職員全員で地域密着型サービスの意義をふまえた内容の理念を作成し、職員へはカードを作り配布して、全員で作った理念の実践につなげるように取り組んでいる。	職員全員で話し合って定めた施設の理念を、身分証明書の裏面に印刷し、常に携帯している。地域密着型サービスの理念は、日々のサービスの提供場面に反映されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の食堂に外食に行ったり、理容店やヤクルト販売店等を利用したり、医療モール内の医療機関や薬局等を利用して交流を図っている。	普段の暮らしの中で、隣近所の人たちとの交流がなされている。地域の販売店や、理容や美容などを積極的に利用し、地域との付き合いを図っている。	地元自治会等への参加については、積極的なアプローチが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在のところ未実施。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動内容の報告の際にはご提言やご評価を頂き、サービスの向上につなげるように取り組んでいる	会議では、事業所と参加メンバーが双方向的な会議となるよう配慮されている。外部評価での課題についても、会議で報告し、意見をもらうよう意識されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には出席していただき、情報交換をすることで、実情や取り組みについて理解していただいている。その中で協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町村担当者に対し、事業所の実情を、折に触れ伝えている。事業所の相談事項に対しては、協働して対応してもらえる関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外への徘徊においては転倒や交通事故などに注意しながら職員が同行し見守りを行っている。	安全確保や危険防止を理由に、ベッドを柵で囲んだりしていない。家族の要望や同意を理由に、身体拘束を正当化していない。日中玄関に鍵をかけていない。外への徘徊の気配を、職員が見落とさない見守りができている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞報道等があった場合には、朝礼等で記事の紹介をして、皆でどう思うか、我々はどうしたら良いかを話し合う機会を設けている。また栃木県高齢者虐待対応マニュアルも閲覧できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ制度を活用したことはない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	先に重要事項の説明を行い、それから疑問点を尋ね同意を得てから契約している。改定時も同様に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご要望情報書、アンケート、ご意見箱により要望等を収集している。また収集した要望については分析を行い、運営推進会議で報告を行い、それらを運営に反映させている。	利用者の思いや意見を把握し、利用者主体に運営されている。意見や苦情について検討が行われ、速やかな対応がなされている。運営推進会議や市町村窓口等、事業所以外の機関にも、意見や苦情を表せる機会があることを説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の各ユニット会議や職員会議にて職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	管理者は現場の状況を知り、職員の努力や成果を把握している。職員がやりがいを持って働ける職場環境を作るため、意見や提案を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各雇用形態の違いはあるが、就業規則や給与規定により職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在のところ一人ひとりのケアの実際と力量に見合った内外の研修の実施はないが、全体的に必要なと判断した内容についての研修は行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に地域包括支援センター職員に参加していただいているが、現在のところ他法人との同業者との交流する機会を設けていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一人の入居者に対して居室担当者を2名設けて、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期面接時に、家族が要望等を話しやすくなるような接し方で対話にのぞみ、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回アセスメントにより最新のニーズを抽出、分析して初回ケアプランを作成します。その後凡そ2～4週間で再度ケアプランの見直しを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりのこれまでの生活環境や現在の家事等の能力を勘案しながら、各自に役割を担って頂き共同生活を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプラン作成前のサービス担当者会議には、家族にも参加して頂けるよう声掛け等を行っている。ただし現在のところ家族による出席は見られていない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これと言った支援方法は定まっていないが、外部から友人・知人が訪問された際には、積極的に受入れをしている。	昔から利用している理、美容院に行っている。家族の墓参りに行っている。これまでの友人、知人等が遊びに来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の座席などは利用者同士が望む席を設定している。現在のところ孤立した利用者は存在していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在のところ該当する事例はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当者を一人につき2名つけており、本人の希望や意向に把握に努めている。	日々のかかわりの中で、利用者の思いや意向を把握している。言葉や表情の中から、利用者の真意を推測している。意思疎通が困難な方には、家族や関係者から情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	継続したアセスメントにより紙面に残し、また本人や家族との会話等からも把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方等をケース記録に記録して生活状況を把握している。また朝礼、昼礼、ユニット会議等でも随時把握したことを職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝礼、昼礼、ユニット会議等把握したことを、本人、家族、必要な関係者と話し合い、ケアプランを作成しており、年に2回以上は担当者間でモニタリングを実施して、次のケアプランに反映させている。	利用者主体の暮らしを反映した介護計画となっている。介護計画は本人や家族の意思を反映させている。アセスメントを含め、職員全体で意見交換を行い、モニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実施したケアはケース記録へ記載している。その日の主だった事柄を業務日誌に記入して職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買物代行や買物同行は必要時に行える体制を敷いている。また細かな日課は設けておらず一人ひとりのペースに合わせて臨機応変に生活できるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問内容や訪問販売、出前などは近隣の地域資源の活用をしている。立地条件にも恵まれており外食や散歩も本人の心身の力を見極めて行うよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医については本人・家族に選択して頂いている。その中で通院同行や往診の受診支援を家族と協議をしながら行っている。	本人や家族が希望するかかりつけ医にかかっている。受診や通院は本人や家族の希望に沿っている。家族の同行が不可能な場合は、職員同行で対応している。必要に応じて、普段の様子や変化の情報を提供している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の訪問看護ステーションとの連携を図り、定期的又は必要時に健康管理が行える体制を敷いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員同行をしてホーム内の様子を説明している。また退院前にも家族に同意を得て、主治医の説明には参加させて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に『重度化・終末期ケア対応指針』を説明して同意を得ている。また看取り開始時には『看取り介護の指針』について家族と話し合いを持つ方向である。	重度化に伴う意思確認書を作成している。事業所が対応しうる最大のケアについて説明している。本人や家族の意向を踏まえ、医師と職員が連携を取っている。安心して最後を迎えられるよう、随時意思を確認しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	現在のところ全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとは言い難い。今後の検討課題になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在のところ全ての職員が災害時に避難できる方法を身につけているとは言い難い。運営推進会議では住民代表の方に応援は依頼しているが具体できな方策は出ていない。	災害に対するマニュアルが整備されている。非常用食料、水、備品等を準備している。消防計画に基づき、消防署の協力を得ながら、避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を定期的に行っている。	自治会や近隣の人たちの協力を得ながら、非難訓練等を定期的実施することが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した言葉掛けや対応をするように心掛けている。個別ケアを実践しているためプライバシーは守られている。	年長者として敬意を払っている。馴れ合いで対応しないようにしている。人権意識を徹底している。言葉遣いや対応に配慮している。利用者の情報に関しては、責任ある取り扱いと管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の言動から心理を読み取り、思いや希望に添えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間や起床時間・就寝時間等の自己決定をして頂いている。共同生活に支障がない限り一人ひとりのペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは本人に納得して頂いて用意している。理容に関してもこちらからの提案はするが無理強いはしていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	無理強いはしてないが一緒に行える時には、行える部分のみ行っている。年齢上や思想上の相違により、全員でと言うのは困難。	どのような場面で、食事がおいしくいただけるかを常に考えている。楽しく食事ができるよう、雰囲気作りを大切にしている。利用者も調理に参加できるようにしている。利用者と一緒に栽培した野菜を使って調理している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居前のアセスメントや日々の状態により食事量、水分量が確保できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	無理強いはしてないが行える時には、行える部分のみ行って頂き、後は補助としてお手伝いをしている。義歯管理が必要な方は管理をさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	大々的にはないが、リハビリパンツ使用者の削減を図っている。オムツ使用の方にも排せつチェック表をつけて排せつ間隔の状況を把握するように努めている。	本人の生活リズムに合った支援をしている。使いやすいトイレを整備している。一人ひとりのサインを全職員が把握している。排泄チェック表を利用している。失敗したときでも本人の思いを大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時にコップ一杯の水分を飲んで頂いたり、個々に応じた適度な運動を取り組むようにケアプラン作成をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	午前中は個々に応じた活動をして頂き、午後からゆっくり入浴時間を設けて、夜間の安眠に繋がるように工夫をしている。見当識が保持できる方には入浴日、時間等は自己決定して頂いている。	本人の希望にあわせて入浴支援をしている。職員の勤務ローテーションに工夫をしている。安心感を持って入浴できるよう介助している。一人ひとりの気持ちや習慣に合わせて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	畳コーナーを設けて居室以外でも自由に休息が取れるように工夫している。昼過ぎから夕方に掛けて入浴時間を設けており、夕食後または団欒後に安眠できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表に一人ひとりの薬についての説明書を添付している。変更時にも情報を共有できるように工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	農作業が好きな方には草むしりや苗の植付け、掃除が好きな方には居室または共有スペースの掃除、唄が好きな方は歌や詩吟、歩くのが好きな方には散歩等の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別対応では買物同行として、近所のコンビニやスーパー等へ出向いている。墓参りなど普段行けない場所には、ご家族や知人等に協力をして頂けるように支援をしている。	歩行困難な場合であっても、車や車椅子を利用して外出できるようにしている。利用者の交友関係に合わせて、近所の友人宅等に遊びに行っている。外食会等も行事に取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物同行で希望があればそのように支援しているが頻度は少ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時に連絡先の電話番号をかけたがり、電話がかかってきた時に取次いだりの支援を行っている。手紙のやり取りについても同様。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	これと言ったの工夫はないが、共用の空間が汚れた時等にはなるべく早く掃除や消毒、換気等をするように心掛けている。換気の際には利用者に声を掛けて了解を得てから行うようにしている。	共有空間は、利用者にとって使いやすい配置となっている。心を和らげる絵画や調度品が飾ってある。庭の菜園には季節や生活を感じさせる野菜が植えられている。家庭的な雰囲気醸し出す工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	応接セットや畳コーナーを、仲の良い方同士や来客が来られた場合自由に使用して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については本人が家で使っていた馴染みのある物を用意して頂くようにしている。病院や介護施設ではないので自由に使用して頂く様に説明している。	寝具や筆筒は家で使っていたものが持ち込まれている。写真や思い出の品が飾ってある。居室や泊まりの部屋は、家庭的な雰囲気を与えるよう工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	完全バリアフリー化にしている。玄関アプローチや廊下、風呂トイレには手すりを取り付けている。各居室ドアは自分の居室と認識できるようにデザインを変えている。		